

SHIN CLUB 191

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



「YON-KA ビル」 撮影：西川公朗

新陳代謝

写真は、北青山に昨年完成した、スパサロンの入ったテナントビルです。「いつまでも若々しく、美しくありたい」というのは、多くの女性の願いです。その願いに応えて、ここ青山にも多くのサロンがありますが、パリのサロンを母体とし、グローバル展開するこのスパサロンには、大切なお客様をお迎えるお店のイメージを壊すことのない、洗練され、かつ優しい内装デザインの店が収まることのできる建物が必要でした。コンクリート打ち放しのビルが、オープンになりすぎず、しかし明るいファサードでお客様を招きいれています。

この表参道と国道 246 号線間の青山一帯は、もともと静かな住宅街でしたが、その合間に小さな店舗が散在するようになり、さらに表通りに次々と建てられた洗練されたブランドビルの波を受けて、内側の小さな通りでも古くなった建物が新しく耐久性、デザイン性に優れた建物に建て替わってきています。特に表通りに繋がる場所には、いくつかの建物がまわって大きなものに建て替わってきている場所もあります。

それは、まるで身体の新陳代謝が行われているような感覚です。これまで弊社が完成させたいいくつかの建物も、小規模ではあってもそれまでの場所が持つ雰囲気を一掃させ、通りを新たに効果的に生まれ変わらせ、街並みに心地よさや賑わいを生み出してきました。その場に立ち会うことで、私たちはワクワクし、作り上げた充実感をお客様や関係者と共有できて、そのことが建築に携わる者の仕事の意味だと改めて思います。

都心のように、その土地に対するニーズが高いと、新陳代謝も順調に行われますが、郊外になるにつれコストパフォーマンスが厳しくなり、当初の目的通りに着地点を見出せなくなって、代謝も滞ってしまいます。

「TOPIC」のコーナーで講演会のご紹介をした青木淳氏は、弊社で今、施工させていただいている日本橋の店舗の設計者でいらっしゃいますが、新潟県の十日町市に分室を設け、そこに常駐する若いスタッフが十日町市の中心市街地の活性化計画に力を発揮しています。中心市街地は、多くの日本の地方都市と同じように以前より活気を失って、店舗も人の賑わいも減ってしまっていたのですが、地元建築家たちや、「ブンシツ」という活動自体が地域の人たちの力になって、いくつかの試みが行われています。生半可ではない活動を通して、「問題はハードを作ることよりも、人の『気持ち』を作り、継承していくことの大切さだ」とスタッフの方たちは述べています。

都会の空き家の問題が大きくなっていますが、そもそも空き家にする前にできること、つまり家族間の良好なコミュニケーションや、建物の基本的な手入れ・管理を今一度考えたいものです。建築家の方々や、建設会社がお役に立てる場面がまだまだあると思われます。新陳代謝は日々の人間の身体の更新であり、未来への遺伝子を残すことが目的なので、建物もまた、老化が全てを覆いつくす前にその気持ちを上手に伝えていきたいものです。

YON-KAビル (北青山3丁目プロジェクト)



グローバル展開するスパサロンが入る 青山の隠れ家的なテナントビル

表参道と青山通りの交差点にある北青山一帯は、戸建て住宅や店舗、小さな集合住宅など、大通りと比べると様々な用途の建物が混在しており、その間を車一台がやっと通れる小さな通りが巡る静かな街である。

当初より入居するテナントが決まっており、スパサロンとそれを運営する本社事務所を1カ所に集約する計画である。面積は100坪、1階と2階に店舗、3階に事務所を設けるという与件であった。

店舗と事務所部分の内装は別の設計事務所が担当したが、計画段階から内装設計の事務所と打ち合わせを重ね、開口部の調整を行った。

敷地は間口が約10m、奥行きが約26mで敷地の奥では7mとなる異形敷地。東側幅3mの公道と、北側幅2mの私道に接道していた。周辺は3階建ての建物が密集している。建替えにあたり道路境界線の後退が求められていた。建物は敷地なりに計画し、各階に求められる面積を確保しつつ、斜線制限いっぱいにはボリュームを確保した。

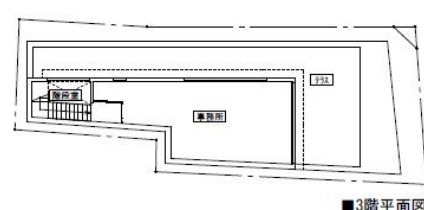
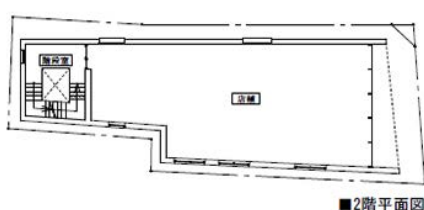
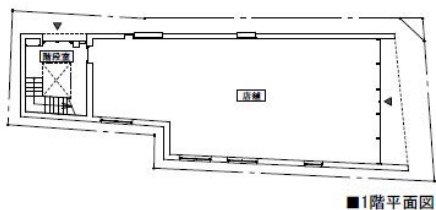
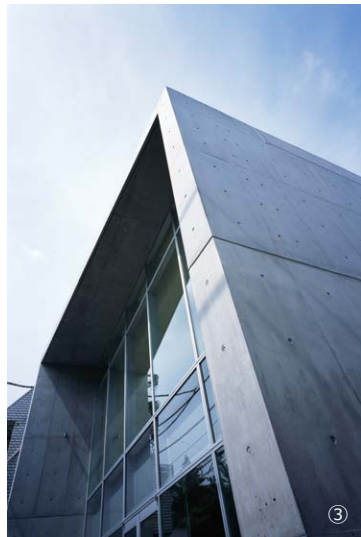
3階部分の2方にはテラスを設け、事務所部分をセットバックさせた。周辺に対して圧迫感を与えない建物となるように通りからは2階建てに見えるようにした。カーテンウォールと袖壁により、訪れる客を招き入れるようなファサードとした。3階テラスの眺望は表参道や青山通り沿いの高層建物と周囲の低層建物の対比が面白い。

ビルオーナーからの要望もあり、鉄筋コンクリート造とし、スラブは無柱空間を確保するためにボイドスラブとした。店舗内部には階段設置ができるように2階スラブに開口を設けたり、1階開口部周囲の壁厚を薄くしたりして、出入口を設けられるなど、将来のテナント入れ替えの時にフレキシブルな対応をできるような計画も行った。

独立まもない私に設計の機会をくださったビルオーナーや関係者の皆様には感謝の気持ちで一杯である。

(加藤正三氏 談)

所在地: 港区 構造: RC造 規模: 地上3階 用途: 店舗
 設計・監理: 辰+加藤正三建築設計事務所
 施工担当: 田所、石川
 竣工: 2015年9月
 撮影: 西川公朗



①全景 (スケルトン時) ②北側私道。右手前が階段入口。中央窓の壁は、新たな入口を設けられるような構造を持つ ③ファサードを見上げる。袖壁には内装工事完了後、店のロゴが貼られた ④3階テラスより東側を臨む ⑤階段室。吹き抜けになっており、左手の店舗への内部扉もセキュリティがかかっている ⑥東側前面道路より臨む夜景

コミュニケーション能力を養う

加藤正三／加藤正三建築設計事務所



若松均建築設計事務所での担当作品
「南麻布の家」 撮影：鈴木研一

Shozo Katoh



加藤正三氏 北青山のYON-KA ビル前にて 撮影：アック東京

今月は、「YON-KA ビル」の設計者、加藤正三氏にお話を伺いました。

加藤：若松均先生には大学院を卒業してから9年半もお世話になりました。何度かそろそろ独立すべきかと思う事もありましたが、長きにわたりとても貴重な経験を沢山させて頂きました。感謝しています。私が入所した時、先輩方は実務経験のある方が多く、先輩の手伝いをしながら、別荘の設計を担当していました。私自身は大学院の研究室で設計の実務経験はありましたが、まだまだでした。数年経つと、新卒の後輩が増えるようになりました。新卒でも担当を持つ事になっていました。ただ完全に任せるまでにはなかなかならず、私は自分の担当をやりながら後輩のサポートをする役目で、作業や現場の状況を見ながら何をしたら良いか、現場に対してどう対応したら良いか、アドバイスしていました。施工定例では、担当者として責任感をもって貰いたく、私は殆ど座っているだけにして、本当に困って定例が進まない時ぐらいしかしゃべりませんでした。そのような経験をして、自分の仕事を俯瞰してみる事が出来たのはいい経験でした。

自分の担当物件だけでなく、後輩のサポートを任せられている物件についても若松さんの作品である以上、先生とのコミュニケーションはとても大切です。双方で押さえ処を確認したり、なにかしらの判断基準を明確にしておくように意識していました。報告や意匠的な部分の変更は当然ですが、どこをこだわるか、どこを現場優先で進めるかなども大事な点です。判断基準などを明確にしておけば、現場監督や職人さんとのやりとりもスムーズです。打合せに掛ける時間も減り、時間をかけるべき事に時間を費やせるからです。

特に現場では、その場で結論を迫られる場面が多いので、それは常に心掛けていました。とにかくしっかりと「意思疎通」をして、戻りや取り返しのつかない事がないようにする事はとても大切です。

建物のプランからディテールまで自分でいくつも考えたり、いろんな方と議論を重ねたりして、自分の考えが形になっていくことはとてもやりがいがありました。今は携帯電話やメールが当然のように使われてとても便利です。時々、疑問に思うこともあります。以前、先輩が重要な指示をメールだけで済ませ、叱った事があります。「メール送信＝相手に伝わっている」と思っていたようです。大切な事はしっかりと相手と話をしないとダメですね。メールが記録として残る面もありますが、なんでも当たり前前に思ったりせず、そればかりに頼ってはいけません。臨機応変に対応をしないとイケませんね。

一若松事務所時代の思い出はありますか。失敗談とか。

加藤：いろいろあると言えます。入所して2年目ぐらいにちょっとと気むずかしい大工さんから直に電話があり「どうしたいのかわからない！！」

って欲しいなら今すぐに現場に来て！」と言われ、急いで行った記憶があります。現場に着くと「よく来たな」とニコリされましたが、恐怖を感じました。図面に対して少しお説教をされましたが、意匠をこうしたいと話す、こうしたらもっと格好が良いと大工さんに教えてもらいました。あのときに現場に行った「行動」とトコトン2人で「会話」をした事、良い物を作る「同じ目的」があったからこそ、大工さんも動いてくれたのだと思っています。後に同じ大工さんと何回か仕事をしましたが、少しの確認作業をするだけで仕事をしてくれるようになりました。

そんな経験もあり、現場の人に対して意匠はこうしたい、それにはこう作って欲しいと話します。そこから、現場の方ともどうしたらよいかいろいろアイディアを出し合うようにしています。一人で出来る事って限られていますからね。設計の仕事の面白さは、お施主様や現場の方とコミュニケーションをとりながら、数字ではなく、何年も何十年も使われ続けて形として残るものをつくることなのです。

一こちらの中目黒の事務所は、都心なのにゆとりあるお庭があっという間雲困気ですね。ちょっとアメリカの住宅のような感じです。

加藤：ありがとうございます。両親と祖父に感謝です。もともとは父親の実家がありました。30年程前に父親の海外赴任を終えて帰国した時に、二世帯住居と借家に建替えました。我々3人の息子が独立し、祖母が亡くなり、4年ぐらい前には両親だけになったので、祖母が住んでいた部分に私が住むことになり、辰さんにリフォームして頂きました。今は自宅兼事務所として快適に使わせて頂いています。少し前までは兄貴が隣の借家に住んでいました。

一いろいろフレキシブルに使われているのですね。家族の仲がよいですね。

加藤：よく言われます。週末になると母親からメールが来て、家族全員が集まって実家で食事をする事が多いです。今は小さな甥や姪も来るので、みんなで集まるとハチャメチャといった感じです。

「なんでそんなに仲がいいの？秘訣は？」と言われます。両親とも「みんなで集まる事が大切」という感覚があるからだと思います。その現れなのが、リビングにテレビがありません。母親がリビングにテレビを置くと嫌っているそうです。食事のときやみんなが集まっているときは、たわいもないことでも会話でのコミュニケーションが大切なのです。テレビを見ながら会話をするってなんだか悲しいですね。今は、私と両親で住んでいますが、そろそろ集合住宅に建て替えてはどうかとか話も出ています。今の家に愛着はあるのですが・・・。建て替えたとしても、家族全員で集まれる場所は残したいですね。

一本日は、ありがとうございました。

「もっとコミュニケーションが必要ですね」

加藤 正三

1978年 ニューヨーク生まれ

2004年 東海大学大学院工学研究科 建築学専攻 修士課程 修了

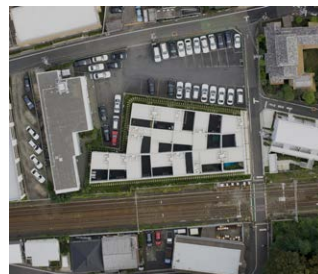
2004年 若松均建築設計事務所 勤務

2013年 加藤正三建築設計事務所 設立

主な作品

美容外科クリニック、Yonkaビル、宮坂の家、TS 社本社移転PJ、K 信用金庫PJ
(以上加藤正三建築設計事務所)

Gridie、南麻布の家、明大前 / 線路際の長屋 (以上若松均建築設計事務所で担当)



若松均建築設計事務所での担当作品
写真左：「Gridie」
撮影：西川公朗
写真右：「明大前 / 線路際の長屋」
撮影：上田宏

『3・11以後の建築』展 @ 水戸芸術館

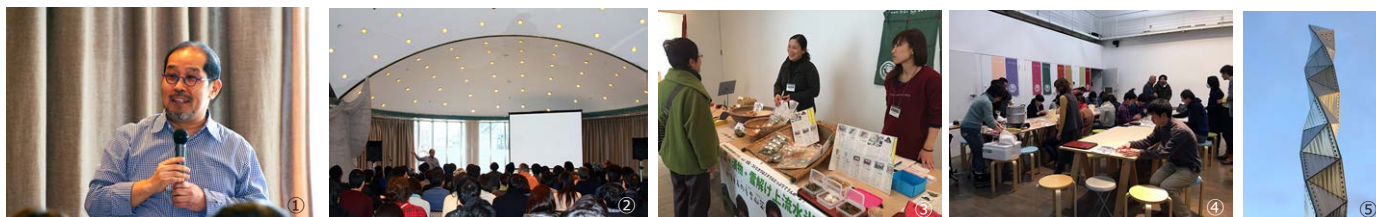
「青木淳氏講演会（1月24日）」と青木淳建築計画事務所十日町分室『ブンシツ』の出張展示

東日本大震災以降の建築家による復興支援の取り組みを紹介している企画展「3.11以後の建築」が金沢21世紀美術館に次いで、水戸芸術館でも開催されました。この企画は、21組の建築家の取り組みを紹介したのですが、今回は青木淳氏の講演会が行われるというので、行ってきました。

磯崎新アトリ工勤務時代に担当された「水戸芸術館」は氏にとって建築家のスタートであり、その後の「潟博物館」「青森県立美術館」などから現在に至るまで、ずっとその考えを更新し続けた原点の建物だということです。演奏や演劇の本番のために時々使う立派なホールを「普段」みんなが使うにはどうすればいいか、展示終了後に原状復帰するのではなく、次の設営をその上に更新していったらどうか、などの自由な発想に、参加者は興味深く聞き入っていました。

一方で、2014年より新潟県十日町市の市街地活性化事業に参加した事務所は2人のスタッフを常駐させて、これからできる建物で行われていく活動を先行して行える場として「分室」(ブンシツ)を設け、市民活動と設計を同じ場所で並走させることによって、「刻々と相互作用が起こる状態」を試みてきました。今回はその一端として、ギャラリー内で十日町の「物産販売」を行ったり、十日町の食材を提供する「まちなか昼ごはん」、大地の芸術祭に参加した林剛人丸氏をゲストに迎えて、伝統工芸品「ちんころ」を制作するワークショップなどを行いました。

地方活性化の新たな手法としての「ブンシツ」の活動、これからも注目していきたいですね。



①わかりやすい語り口の青木淳氏②講演会場となった南西の角に位置する会議場。ドーム天井にちりばめられた照明、モンロー型外部階段など見所あり③ギャラリーで行われている物産展④「ちんころづくりWS」、「まちなか昼ごはん」も開催⑤街のアイコンとなった水戸芸術館のタワー。入口でそのメイキングビデオが見られる

「カスケード原宿 (CASCADE HARAJUKU)」が『近代建築 2016年1月号』に掲載されています



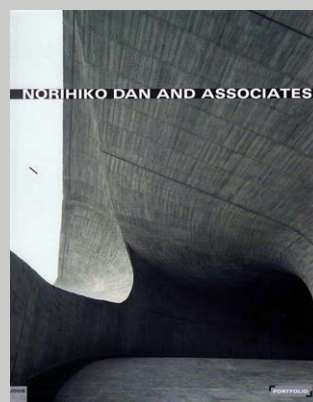
弊社施工で昨年秋完成した原宿の商業複合施設です。テラスと植栽が豊かな、大人も楽しめる新たなスポットとして注目のビルです。

写真：アック東京

構造：RC造
規模：地上3階、地下1階
用途：飲食・物販店舗・事務所
建築主・開発：ポルテックス
企画・設計：UDS
完成：2015年秋

発行：近代建築社
A4変形判
2,300円(本体価格2,130円)
2016年1月12日発売

團紀彦作品集『NORHIKO DAN AND ASSOCIATES』が発行されました



團紀彦氏の作品集がベルリンの出版社より発行されました。「日月潭風景管理処」で外国人として初めて台湾建築賞首賞を受賞した團氏の、本格的欧米読者向け写真集です。アメリカ/オランダの著名建築評論家 Aaron Betsky 氏、台湾の編集者金光裕氏が寄稿。巻末には團氏から師である横文彦氏へのインタビューが掲載されています。

発行：Jovis Berlin
洋書 (amazonなどで購入可能)
ISBN-10: 3868593071
ISBN-13: 978-3868593075
発売日：2015年11月24日

「(仮称) 業平3丁目プロジェクト新築工事」
地鎮祭 2016年1月12日



お世話になっている業者様のビルを建築させていただきます。

構造：壁式RC造
規模：地上3階
用途：工場・専用住宅
設計：鈴木孝紀/鈴木孝紀建築設計事務所
完成予定：2016年8月

「新川2丁目共同住宅新築工事」
地鎮祭 2016年2月2日



自社ビルから共同住宅への建替え工事です。地域に調和し、皆様に喜ばれる建物が出来上がります。

構造：RC造ラーメン構造
規模：地下1階、地上12階
用途：共同住宅
設計・監理：長谷川建築デザインオフィス
完成予定：2017年12月

編集後記

・暖冬と聞いていましたが、年が明けてからは寒い日が続きます。水戸を訪れた日も風が強く、雪が舞う1日でした。